

る児童生徒一人ひとりに応じた支援計画は56校で作成されている。

さらに、学校支援員が担任と連携して指導に加わることで、発達障害のある児童生徒も落ち着いて学習できるようになっている。

今後、学校の組織的な取り組みを充実させるため、教職員の発達障害に対する理解を一層深め、適切な指導・支援ができるよう、先進的な取り組み事例の周知と、巡回相談事業の充実に取り組む。

#### ◇関連質問

・特別支援教育の推進(誠友会)

### ふくやまマラソンの振興策 (誠友会)

**問** 都内の名所を駆け抜けた東京マラソン2007では、3万人の市民ランナーが出場し、沿道には170万人が詰めかけた。ふくやまマラソンも昨年より公認コースとなったが、ややコースが単調との声もあり、将来的には軌に向かって走るなどの、コースの変更の検討も必要ではないか。また、大会の安全対策はどのように講じているのか。

**答** 今大会は、4099人とい



ドクターランナーと記載した帽子

う過去最高の参加申し込みがあった。ハーフと10キロのコースは、日本陸連の公認を得た期間である5年間は現行コースで対応したい。安全対策は、今回よりAEDを背負い自転車でコース内を巡回するとともに、医師の参加者にドクターランナーと記載した帽子をかぶり走ってもらうよう予定している。

### 福山中・高等学校の取り組みの成果 (水曜会)

**問** 福山中・高等学校がスタートして3年が経過したが、福山中学校でのこの間の取り組みの成果は、生徒に付きたい3つの力を設定し取り組んできた。①21世紀に必要なコミュニケーション能力などの育成は、独自教科としてコミュニケーション科を設け、聞く

力や論理的に話す力を高めた。②進路希望を実現する確かな学力は、基礎基本定着状況調査の平均通過率が、国語92%、数学93%、英語97%となるなど高い成績を収めた。③自己を高めた社会に貢献する意欲・態度の育成は、通学路の草取り、備後赤坂駅の清掃、市民平和のつどいへの参加などのボランティア活動を行い、実践的な態度を育成した。

### 電動車いす利用者の安心・安全は (新政クラブ)

**問** 周辺の団地などでは、居住者が年齢を重ね、一斉に高齢者となる現象が起きている。電動車いすの利用者も急激に増加し、今まで感じなかった歩道の段差も、利用者にとっては大きな障害となっている。住み慣れた地域で安全に過ごせることが求められる社会において、道路改修時に、歩道の段差解消も行うべきと考えるが、どうか。

**答** 歩道の整備は、高齢者や身体障害者をはじめ、誰もが安心・安全に利用できるよう、歩道の段差解消や点字ブロックの敷設などに努めている。今後も、電動車い

すの利用者にとっても優しいユニバーサルデザインの視点で整備に取り組み。

#### ◇関連質問

・松永駅・東福山駅周辺の交通バリアフリー基本構想の策定は (市民連合)

### 消防団の再編 (明政会)

**問** 本市消防団においては、サラリーマン団員の比率が高くなっていると聞いている。

さらに、全国的にも消防団員の確保が困難になっており、国もその確保のさらなる推進を図っている。このような中、本市消防団も実態に即して、分団の再編・再整備を行い、機動的に動ける消防団を目指す時期にきているが、考えは、



重要文化財の消防訓練